不登校生の多様性に対応する サポートルームの開設

上田市立第六中学校　　藤井　善章

サポートルームの開設

「学びの改革実践校応援事業」に応募

・普通教室以外の別室に「サポートルーム」を開設

・サポートルームには、教科指導も生徒指導も十分に力を発揮できる正規教諭を据える。この教諭が通常学級の授業を持たないでサポートルームに常時滞在する。専任教諭の分の授業を加配教員が受け持つ。

不登校生が学校へ来やすくなるための環境整備（TPP）

時間
（Time）

自分が来やすい時間に

→いつでも生徒の受け入れを可能に

場所
（Place）

教室ではない特別な場所で

→人目につきづらい場所に支援室を開設（サポートルーム）

人
（Person）

常駐職員がマネジメント

→加配を活用した職員配置

教室らしくない部屋　誰もが居心地のよい部屋

サポートルーム経営理念（Ｒ４「教育計画」より抜粋）

- 学習することや教室に復帰することを前提としない。学校に来られない生徒が、学校に来るということをめざして支援を行う。
- 生徒が自分の居場所を見つけ、自信をもつことにつなげる。
- 自分自身のゴールを自分で見つけられるように支援する。
- その生徒の状況に沿った支援の計画を立て、実践する。

生徒昇降口・教室棟と離れているため、人目を気にせず入室できます。

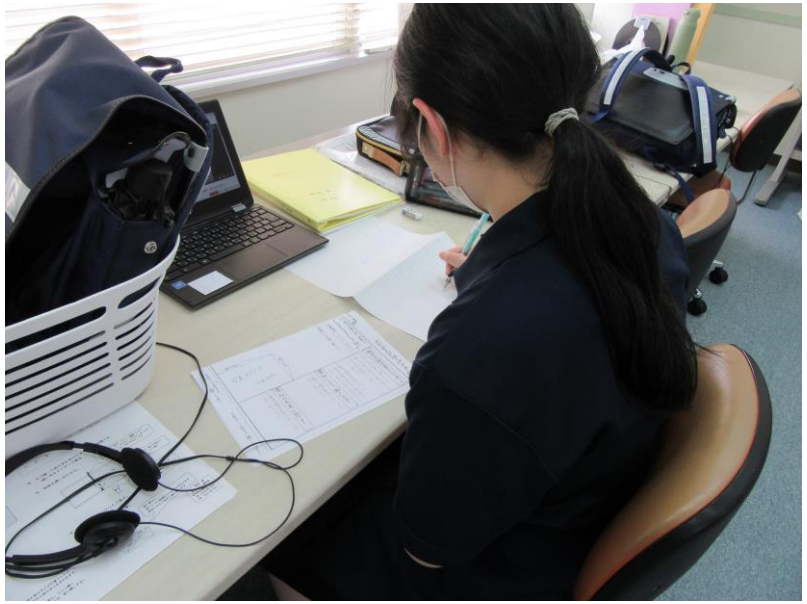
４月当初の部屋の様子

研修会や視察での学びを生かしてマイナーチェンジ

多様な学びの機会を保障

Googleクラスルームを利用して
オンラインで教室の授業に参加

サポートルームから自分のクラスの授業にオンラインで参加する１年生



自分が学びたい内容を自分のペースで進める

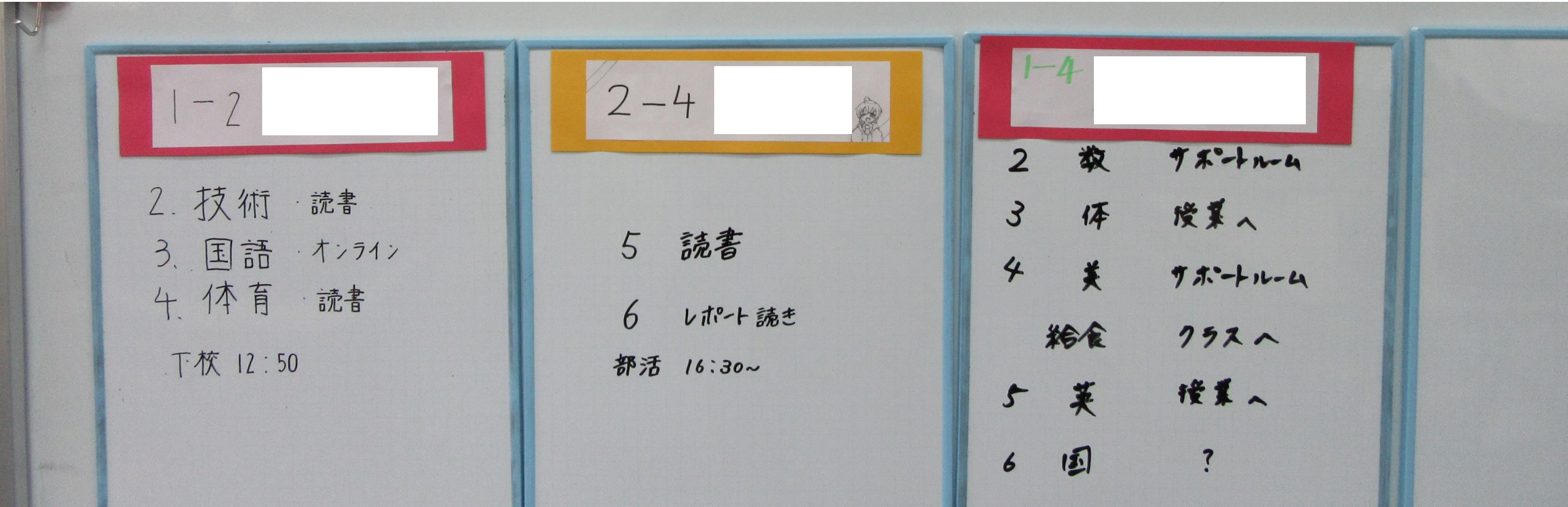
自分が取り組みやすい時間帯に職場体験のまとめを作成する２年生

長野県学習状況フィードバックシステム（CBT）の活用

総合テストに向けて２年生の学習内容を復習する３年生

自己決定を促し、自立を支援

１人１枚のホワイトボードを用意し、登校したら、その日をどのように過ごすかを自分で決め、記入します。うまく計画できない場合は、専任教諭が助言しながら進めています。



心を豊かにして自己存在感を高める体験

自分の強み
を伸ばす

豊かな体験

小集団での協働的な活動で人間関係形成

この部屋では気持ちが楽で、安心して過ごせる。いずれは教室へ戻って過ごせるような自分になりたい。（１年男子）

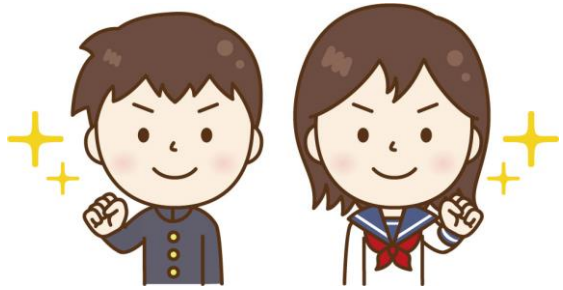
無理していろんなことをやらなくてもいいから、気持ちが楽。今すぐ教室に戻りたいという気持ちはない。（２年女子）

教室では、いろんな人に見られているようで、いつも緊張する。今は気持ちが楽。教室には戻れなくても、受験に向けて学力をつけていきたい。（１年女子）

教室で大勢で過ごすよりも気楽な気持ちで過ごせる。（２年女子）

いつ来てもいいから、安心して過ごせる。（２年女子）

サポートルーム
利用生徒の声

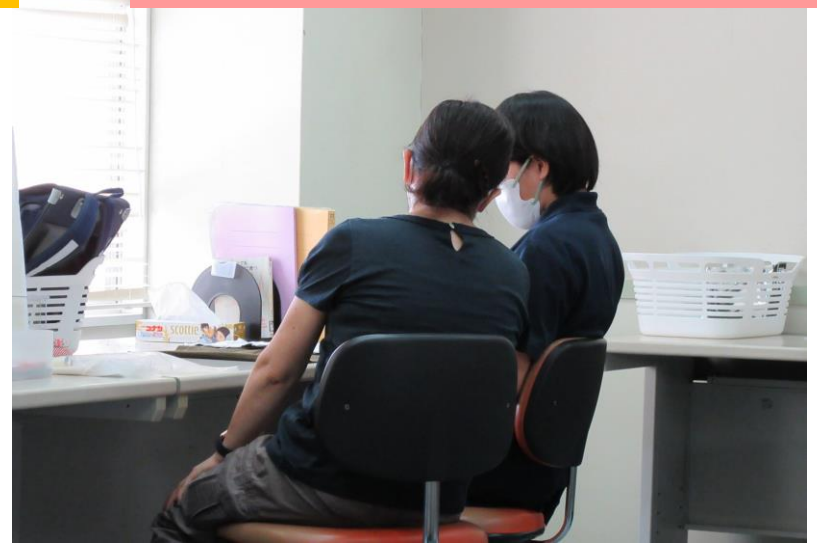


担任・教科担当の先生方との連携

クラスとのつながり

職場体験学習について説明する担任の先生

教科の専門性



空き時間に裁縫のやり方を教えに来てくれる家庭科の先生

魚とりを一緒に楽しみ、助言をしてくれる理科の先生

生徒の心を動かした先生方の働きかけ①

３年生担任

「担任以外の人とのつながりをつくろう！」

週１回サポートルームへの登校につながる

２年生担任

「給食、食べていってみない？」

午後からの登校が、お昼前の登校に変化

生徒の心を動かした先生方の働きかけ②

２年生担任

職場体験学習に向けて、それぞれの生徒の実情を踏まえ、参加できそうな内容を一緒に考え、決定した。

↓

サポートルームに登校している生徒も職場体験学習に参加することができた

１年生担任

生徒の心身の不調に寄り添い、丁寧な家庭連絡を経て、サポートルームへの登校を提案した。

↓

不登校にならずに毎日登校できている

生徒の声を聴こうとする　寄り添う

生徒理解

一人一人に寄り添う

時期やタイミング

伝え方

教師の前向きな変化

＝

生徒の前向きな変化

サポートルーム　現在までの成果

- 登校できない、教室へ入れない生徒にとって、学校での自分の居場所として位置付いてきた。
- それぞれの生徒の実情に合わせた利用ができるようになってきた。
- 利用する生徒が取り組んでみたいことを支援できる環境が整ってきた。
- 多くの先生方の意識が変わってきた。生徒の多様性への理解が進んできていると感じる。

サポートルーム　今後の課題

・学習することに気持ちが向かない生徒への支援の在り方が難しい。１日をどう過ごせば良いか。現在は、１日の半分くらいは学習をがんばろうと話しています。
・保護者との合意形成をどのように図っていくか。教科の成績や進路について。
・個別の支援計画の作成、職員間での情報共有の在り方。
・次年度以降の運営について。